

新一万円札発行記念

デジタルアーカイブ「論語と算盤オンライン」3月29日公開

— 渋沢栄一述『論語と算盤』の原点をインターネットで —

URL : <https://eiichi.shibusawa.or.jp/features/rongotosoroban/>

各位

公益財団法人渋沢栄一記念財団

渋沢栄一の思想の継承を目指す公益財団法人渋沢栄一記念財団（所在地：東京都北区、理事長：樺山紘一）は、今年7月に新一万円札の肖像となる渋沢栄一の『論語と算盤』をデジタル化し、2024年3月29日（金）、デジタルアーカイブ「論語と算盤オンライン」として無料で公開いたします。

ぜひご活用いただき、周知についてご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

『論語と算盤』の原点をインターネットで無料公開

『論語と算盤』は渋沢栄一の最もよく知られた著述のひとつです。その原点は、1916（大正5）年9月、東京の東亜堂書房より刊行された小型本で、渋沢栄一記念財団の前身である竜門社の機関誌『竜門雑誌』などに掲載された渋沢栄一の訓話を基に編纂されたものです。現代語訳などで版を重ね、多くの人に読み継がれていますが、現在では当初の姿を知ることが難しくなっています。

「論語と算盤オンライン」では、東亜堂書房版『論語と算盤』をデジタル化し、第一弾として、本文テキストと共に、解題や出典と思われる記事に関する情報などを無料で公開いたします。これにより『論語と算盤』の原点を、インターネットを通じて「いつでも、どこでも、だれでも」読み、理解を深めることが可能になります。スマートフォンにも対応する「論語と算盤オンライン」で渋沢栄一の叢智に触れ、ご活用いただければ幸いです。

(1)「論語と算盤オンライン」トップページ



■第一弾の公開内容（「テキストで読む」）

(2)『論語と算盤』本文冒頭：「論語と算盤は甚だ遠くして甚だ近いもの」

旭世と信条 画像で読む

論語と算盤は甚だ遠くして甚だ近いもの

今の道徳に依つて最も重なるものとも言ふべきものは、孔子のことに就て門人達の書いた論語といふ書物がある、是は誰でも大抵読むと云ふ事は知つて居るが、此の論語といふものと、算盤といふものがある、是は甚だ不釣合で、大要に懸隔したものであるけれども、私は不断に此の算盤は論語に依つて出来て居る、論語は又算盤に依つて本当の富が活動されるものである、故に論語と算盤は、甚だ遠くして甚だ近いものであると始終論じて居るのである、或時私の友人が、私が七十になつた時に、一の画帖を造つて呉れた、其の画帖の中に論語の本と算盤と、一方には「シルクハット」と朱鞘の大小の絵が描いてあつた、一日学者の三島毅先生が私の宅へござつて、其の絵を見られて甚だ面白い、私は論語読みの方だ、お前は算盤を攻究して居る人で、其の算盤を持つ人が斯くの如き本を充分に論ずる以上は、自分も亦論語読みだが算盤を大に講究せねばならぬから、お前と共に論語と算盤を成るべく密著するやうに努めやうと言はれて、論語と算盤のことに就て一の文章を書いて、道理と事実と利益と必ず一致するものと云ふことを、種々なる例証を添へて一大文章を書いて呉れた、私が常に此の物の進みは、是非共大なる慾望を以て利殖を図ることに充分でないものは、決して進むものではない、只空理に趨り虚榮に赴く国民は、決して真理の発達をなすものではない、故に自分等は成るべく政治界軍事界などが唯跋扈せずに、実業界が成るべく力を張るやうに希望する、これは即ち物を増殖する務めである、是が完全で無ければ国の富は成さぬ、其の富を成す根源は何かと云へば、仁義道徳、正しい道理の富でなければ、其の富は完全に承統することが出来ぬ、茲に於て論語と算盤といふ懸け離れたものを一致せしめる事が、今日の要の務と自分は考へて居るのである。

本文テキスト
(ページ画像は2024年度
公開予定)

底本：『論語と算盤』（再版）（東亜堂書房、1916.09）p.1-3
参考記事：実業報知新聞五週年式場に於て（『竜門雜誌』第306号（1913.11）p.19-23）

出典と思われる記事の情報
(本文は2024年度公開予定)

■充実した周辺情報（解題などの解説集）

- ・『論語と算盤』とは

URL：<https://eiichi.shibusawa.or.jp/features/rongotosoroban/about.html>

■「論語と算盤オンライン」について

■公開日：2024年3月29日（金）

■URL：<https://eiichi.shibusawa.or.jp/features/rongotosoroban/>

■ポイント：誰もが渋沢栄一の叢知を活用できるようにするため、『論語と算盤』の原点をデジタルアーカイブで無料公開。渋沢栄一の最もよく知られた著述を「いつでも、どこでも、だれでも」読み、調べることが可能になる。

■今後の予定：2024年度には、第二弾として、東亜堂書房版『論語と算盤』のページ画像、TEI/XML形式のテキスト・ファイルを公開するほか、出典と思われる記事の本文をデジタル（テキスト）化して順次公開する予定。

■東亜堂書房版『論語と算盤』（1916年刊）について

■述者、編者：渋沢栄一（述）、梶山彬（編）

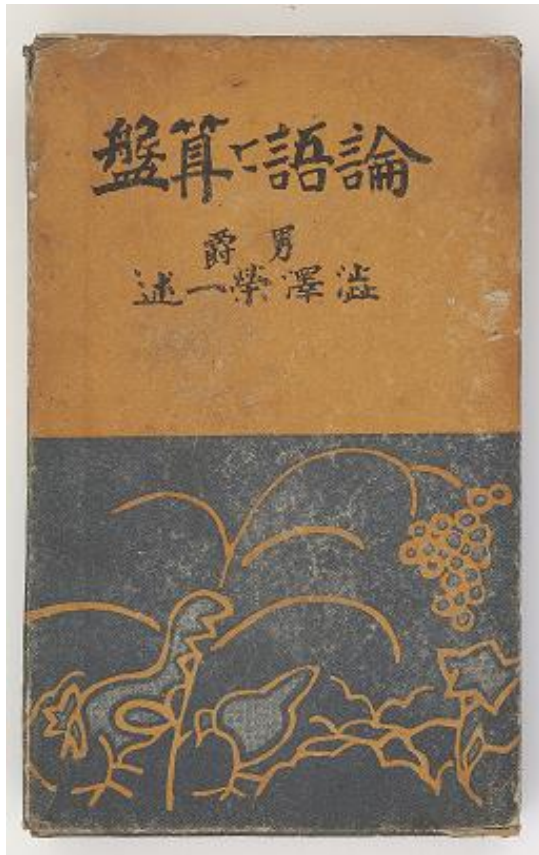
■発行年月日：1916（大正5）年9月13日（初版）、1916年9月25日（再版）

■発行所：東亜堂書房（東京）

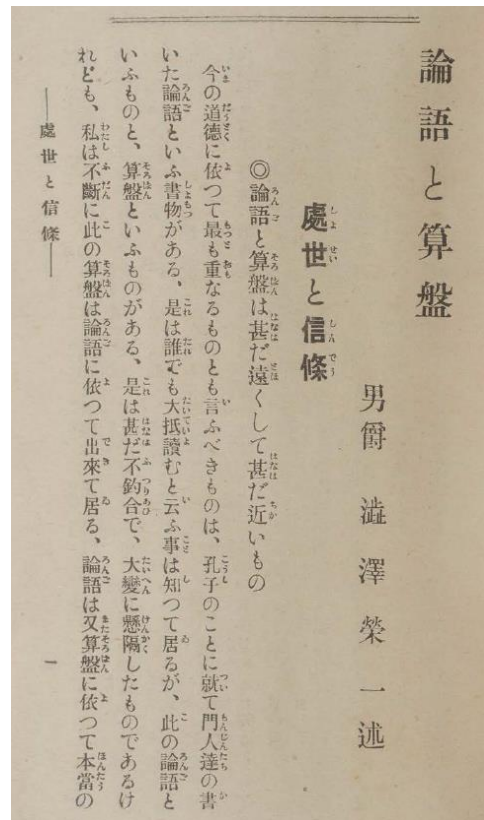


2024年3月30日

(3) 東亜堂書房版『論語と算盤』外函



(4) 東亜堂書房版『論語と算盤』冒頭 (p.1)



(参考) 公益財団法人渋沢栄一記念財団について

渋沢栄一記念財団は、渋沢栄一（1840～1931年、号=青淵 [せいえん]）が常に主張し、実践していた「道徳経済合一主義」に基づき、経済道義を高揚することを目的とする公益財団法人です。

URL : <https://www.shibusawa.or.jp/>

(参考) 情報資源センター（開発部署）について

情報資源センターは、渋沢栄一と実業史に関する情報資源を開発・提供する渋沢栄一記念財団の図書館・デジタル部門です。2003年11月に設置され、これまでに「グッドデザイン賞」「Library of the Year 優秀賞」（いずれも2009年）、「図書館サポートフォーラム賞」（2017年）、「デジタルアーカイブ学会学会賞（実践賞）」（2019年）を受賞。

URL : <https://www.shibusawa.or.jp/center/>

■お問い合わせ・取材申し込み

公益財団法人渋沢栄一記念財団 〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1

・情報資源センター（開発部署）：電話 03-3910-0029、Fax 03-3910-0085

・総務グループ（広報）：koho@shibusawa.or.jp

電話 03-3910-2314、Fax 03-3910-2849

・お問い合わせフォーム：<https://www.shibusawa.or.jp/contact/index.html>